

大学共育と平和学 ～学生が平和のための 学びの主人公になる(下)

愛媛大学法文学部 教授

和田 寿博



1963年兵庫県生まれ。日本平和学会会員。戦前戦後の企業経営を専攻し、戦争体験記録に取り組んでいる。学生の広島・沖縄・韓国・中国・台湾・香港などでの平和友好の旅を支援し、東北アジアの平和を目指している。

※大学共育と平和学～学生が平和のための学びの主人公になる(上)
<http://mjk.ac/dwZJas> (短縮 URL)

※大学共育と平和学～学生が平和のための学びの主人公になる(中)
<http://mjk.ac/KpZWY6> (短縮 URL)

4. 学生が取り組む平和友好の旅

私は平和学の知見や内外での Peace Study Tour を参考に、平和学受講生や元受講生、関心ある学生を対象に、夏季休業などに実施する「平和友好の旅」を呼び掛けている。

大学の教育課程改革では、教養と専門の関係、文理融合、国際化などが検討されてきたが、私は座学と実学、Deskwork と Fieldwork、Active learning

を具体化したい。平和友好の旅はその検討対象になると考える。

学生は愛媛県や広島、長崎、東京などの国内および韓国、中国、台湾、香港などの海外を訪問し、アジア・太平洋戦争などの戦争体験者と交流し、戦跡や資料館などで学びを深める。近年、国立大学法人では国内へのフィールドワークや海外研修を奨励し、若干の補助金を支給している。私はこれらの制度を活用し、学生が平和のための学びの主人公になるように支援をしている。学生が取り組む平和友好の旅の成果は、世界の人々のことを学び、戦争ではなく平和的な方法で国際社会をつくるエナジーになる。

愛媛大学学生の多数を占める愛媛県出身者は、小中高校で広島、長崎、沖縄を訪問する平和学習のような機会が少ない。松山市立小学校では、2014年度以降、修学旅行に際して戦争体験をもつ平和の語り部が戦争体験を語る機会を設け、修学旅行の初日、児童は松山から移動して平和公園を散策し、昼食にお好み焼きを食べ、午後、山口県などを訪問する。松山の子どもはこれ以外の平和学習を特段しないままに育ち、愛媛大学に入学した場合、一部が平和学を受講し、さらに一部が平和友好の旅に取り組むことになる。愛媛大学学生の出身者が2番目に多い広島では平和学習が活発だが、3番目の岡山等と比べても開きがあり、愛媛大学平和友好の旅は重要かつ希少な学びの機会である。こうしたことから愛媛県では Peace Study Tour は家族等の引率によることになり、私の場合、子どもたちの共育のために、家族旅行として神戸市の人と防災未来センターや広島・長崎・沖縄などを訪ねた。

なお、松山市には高松市平和記念館や岡山市岡山空襲展示室のような空襲・戦災などを中心に「戦争の悲惨さ平和の尊さ」を紹介する平和資料館はない。2005年、市民グループが「平和資料館の設置を求める請願」を市議会に提出したものの否決され、その理由は市民の強い要望があれば検討するというものであった。その後、松山市・愛媛県では平和資料館を求める取り組みが継続し、まちづくりの課題となっている。

以下、本紙の読者にとって、大学共育と平和学を検討する際の参考になるように、内外での戦争と平和を学ぶ Peace Study Tour、平和友好の旅の一部を紹介する。

【平和友好の旅 広島】

訪問先：8月5日 広島平和記念資料館、平和公園などの原爆戦跡

8月6日 広島平和記念式典、被爆者との交流

ご存知のように戦後70年を経た今日でも、8月5日、6日には内外から多数の人が広島を訪問する。学生も8月6日の広島平和記念式典はテレビでは見たことがあるが、どうなっているのかを知りたい、爆心地で体感したいとの思いがあり、私は旅を主催している。広島は訪問コースが確立しており、原爆語り部の協力を得て8月5日～6日を過ごす。学生らは8月6日の午前8時15分、平和公園で式典に参加し追悼する。学生の平和への真摯な思いが感じられる。

近年では、学生は広島東照宮の久保田訓章宮司に入市被曝の体験こと、『仲



被団協集会での発言



平和記念式典に出席

ちゃんの三輪車』のご家族に被爆体験や継承のこと、広島平和宣言の起草に長年かかわっておられる愛媛県出身の大西知子さんに取り組みへの思いなどをお聞きしてきた。2015年は愛媛県原爆被害者の会会員と日本原水爆被害者団体協議会の行事等に参加し、故肥田舜太郎医師やオバマ米国大統領と握手をされた坪井直被団協代表委員と交流した。学生は元安川での灯籠流し（送り火）を見ながら帰路につく。暑中での疲労と共に、核兵器のない平和な社会に向けた関わりを感じているようだ。この体験は、後に核兵器のない世界、東北アジアの非核化へのエナジーになる。

【平和友好の旅 沖縄】

訪問先：①沖縄戦の体験者との交流

②南部戦跡・平和の礎・平和祈念資料館

③普天間・嘉手納の米軍基地

④名護市辺野古・東村高江の新基地建設現場

⑤琉球文化行事など

2000年7月、日本政府は沖縄振興策の一環として沖縄サミットを誘致し、2001年のNHK朝の連続テレビ小説「ちゅらさん」のヒット、沖縄系バンドの活躍、沖縄料理店の開業など沖縄ブームが高まりを見せた。沖縄に対する注目、Real 沖縄の理解が進み、1992年にデビューして活躍してきた安室奈美恵さ



嘉数の丘戦跡を訪問



辺野古の基地建設現場を体感

んが本年9月に引退を表明している。そんな沖縄ブームを学生は詳しくは知らない。でも、平和学を受講する学生は何となく沖縄を気にしている。

学生はアジア・太平洋戦争末期、1945年4月より米軍が沖縄上陸を開始し、九州・四国から特攻作戦が行われ、6月23日、沖縄の日本軍の組織戦が終了したことを十分に理解していない。日本人の全戦没者（軍人・軍属・民間人合計）20万人、沖縄県民の犠牲者が12万人以上に上り、全体像は今も分かっていないことも。日露戦争以来、精鋭と称された陸軍松山22連隊は沖縄で終焉した。学生は、今、沖縄戦や基地問題とまちづくりについてどのように言動するのかを考えるために旅をする。

沖縄戦の体験者としてはひめゆり

学徒隊が有名だが、近年、15歳前後の生徒で結成された鉄血勤皇隊の関係者が語り部に取り組み、首里高校にある(社団)養秀同窓会の協力を経て体験をお聞きした。沖縄戦では日米軍との戦闘に加え、住民が日本軍の指揮により、集団死をはじめ悲惨な死を遂げたことが伝えられている。学生は複雑な戦況をなんとか理解しようと取り組む。

沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松さんのお話により、学生は沖縄戦はまだ終わっていないと凍りつくような思いを感じる。自然の洞窟ガマを掘る高松さんは、米軍の砲撃や火炎放射器、手榴弾での自決で多くの人が命を落とし、ガマや周辺には今も遺骨が倒れたままの姿であるという。高松さんは遺骨を丁寧に掘り出し、身元を確認し、故郷の家族に返している。学生は政府の責任が問われていると痛感した。



トウラバーマ(八重山地方に伝わる古謡)大会を鑑賞



東村高江で住民と対話

学生は普天間・嘉手納の米軍基地の戦闘機の爆音を聞き、恐ろしさを感じなければ基地問題は「本土」では理解できないことを知った。また基地問題が名護市辺野古の新基地によって解決できるのか、なぜ東村高江のヤンバルに基地をつくるのか不可解に思った。

学生は琉球文化に触れ、民謡の中にウチナンチュ(沖縄出身の人)の思いや知恵、逞しさを感じた。ヤマトンチュ(他県の人)としての平和への責任も感じた。沖縄の問題は、東北アジアの平和と一緒に考える必要があることを知った。

【平和友好の旅 韓国】

訪問先：①釜山：龍頭山公園、ジャガルチ市場、四十階段通りなど

②ソウル：景福宮、昌徳宮、各種博物館、西大門刑務所、DMZ、ミュージカルなど

③忠清南道禮山郡：小中高校・高齢者施設の訪問 歴史資料館、寺院、行政機関、住民交流

近年、国立大学法人は海外研修を奨励しており、私は学生にとって、初めての、安価で、安全な、関心が高い韓国への海外研修を支援している。韓国・平和友好の旅の目的は、学生が太古からの日本と朝鮮、東北アジアの民族・文化・歴史・現在を体感し、戦争と平和、自己と世界そして時代について考



釜山の龍頭山公園



ソウルでサンゲタンを食べる

えることにある。1910年、日本は大韓帝国を併合し、1945年まで植民地支配を続けた。1950年、朝鮮戦争が始まり、現在まで停戦という名で緊張関係が続いてきた。1965年の日韓基本条約以降、両国民の交流が進んできたが、植民地支配に関わる日本の戦争責任、領土問題、いわゆる従軍慰安婦問題など未解決の問題がある。学生たち若い世代は、大人のように利害やいきさつ、メンツなどにとらわれず言動できる。学生は対話と平和友好を進め、人間同士の交流をもとに東北アジアの平和の展望を見出す。

学生は韓国を体験するため、福岡から最寄りの韓国・釜山へ

船舶で3時間。アンニョンハセヨ！^{こんにちは} ジャガルチ市場では同じ海産物を食べていることを知り近しさを感じる。元気いっぱいのおばあさん^{おばあさん}の行商のハルモニとハンゲル、身振り^{おばあさん}で対話する。龍頭山公園には豊臣秀吉による文禄・慶長の役で朝鮮の英雄であった李舜臣の像があり、四十階段通りには朝鮮戦争当時の人々を表現した銅像が立つ。近世の歴史、朝鮮通信使、現代を学ぶ出発点になる。

ソウルには新幹線 KTX で2時間、約 5000 円で移動する。韓国人に声をかけられ、会話レッスンのチャンス。「どこに行くのですか」との問いに、「平和友好のために来ました。^{おとうさん}アボジは日本語が上手ですね。」といった具合だ。

ソウルでは世界遺産・昌徳宮、朝鮮総督府があった景福宮、光化門の大通りなどを訪ね、民俗村でサンゲタンをいただく。チャルボックスムニダ！^{いただきます} 沢



忠清南道の高齢者施設で対話



忠清南道の小学生と妖怪ウォッチ

山歩いて、民族食を食べることも両国民の理解につながる。中央博物館などで古代から現代までの朝鮮と東北アジアの歴史・文化を学ぶ。ふと、自分のルーツはこの半島にあるのかなど思いをはせる。西大門刑務所や独立記念館では戦前日本の植民地支配を学び、自分と向き合う。DMZ (Demilitarized Zone) では北朝鮮を展望し、同じ民族の不幸な対立を知り、日本の責任を思う。明洞の劇場でNANTA^{キッチン器具を楽器にしたセリフのない劇}を見て興奮する。楽しく、起伏のあるソウルを満喫する。^{ハンソ}愛媛大学が提携する韓瑞大学の地元、忠清南道禮山郡では小中高校・高齢者施設などで住民と交流し対話を重ねる。日本の

アニメ、芸能、流行などに詳しい人がいて驚く。日本政治への評価は総じて批判的だが、問題は韓国、朝鮮をどうするかだと熱心に論じることに感心した。日本語教室のアボジ、ハルモニは、「戦前、日本語を押し付けられて嫌だったが、今はもっともっと日本から学びたい」ときれいな日本語で話され、学生は恐縮した。軍事独裁政権を打破した韓国の民衆は南北統一、東北アジアの平和を実現したいと述べ、その視野に魅せられた。夜中まで続く、砂時計形両面太鼓、農楽太鼓、小型の金属製打楽器、韓国の現代音楽、大衆向け醸造酒、チャンゴ、ブク、ケンガリの音とサムルノリ。地元のマッコリ、手作りのキムチやチヂミ、両国の交流は多様な方法が可能だと分かった。

【平和友好の旅 韓国と松山】



愛媛大学生が忠清南道の挿橋高校を訪問



挿橋高校生が愛媛大学を訪問

5. 学生は南北首脳会談をこう見た

2018年6月12日、アメリカ合衆国のドナルド・J・トランプ大統領と朝鮮民主主義人民共和国の金正恩国務委員長はシンガポールで、初めてとなる歴史的な首脳会談を開催した。共同声明によると、金委員長は「朝鮮半島の完全な非核化への強固で揺るぎない決意」を表明し、トランプ大統領は「北朝鮮に対する安全の保証の提供」を約束し、米朝両国が「平和と繁栄を望む両国民の願いに従って新しい米朝関係を樹立」し、「朝鮮半島に永続的で安定した平和体制を構築」することを宣言した。



米朝首脳会談 Public Viewing

この日の夕方、学生10人は教室で、インターネット中継を見ながら「Public Viewing」を開催し意見交換した。このような行事は初めての開催であり、それだけに注目が高く、メディアが取材した。学生は次のような感想を述べた。「この冬まで核戦争が勃発しそうだったが、東北アジアの平和が実現しそうなことを歓迎する。」「詳しくはわからないが、大きな出来事をリアルタイムで見ることができた。」「朝鮮半島の非核化にはまだ時間がかかるだろうが、粘り強く取り組んでほしい。」「非核化の費用を韓国と日本が負担することは心配だ。」「朝鮮戦争の終結を期待したい。」「これからは日本の北朝鮮に対する戦争責任、戦後補償を考える必要がある。」「東北アジアの平和に期待したい。」「もしかしたら北朝鮮に旅行ができるかも。ちょっと不安だけど。」「地元TVで朝鮮学校生徒の喜びの声が報道されていた。彼らにとっても大きな出来事なのだと思った。」「・・・感想は尽きない。

学生は長年にわたって厳しく敵対してきた米国と北朝鮮が初の首脳会談を行い、朝鮮半島の非核化と平和体制構築をすすめ、両国関係を敵対から友好

へと転換させるために努力することで合意したことに対して心から歓迎した。上回生になった元平和学受講生は、メディアの取材に次のように述べた。「具体性に乏しいなどの否定論や懐疑論はあるものの、簡単には後戻りできない重みがある。この会談は米、朝、韓、日、全世界の人々が核戦争の脅威から抜け出す機会を与えた。」「会談は和 PAX Americana、北朝鮮による平和 PAX North Koreana によるものではない。その背景には日韓中露蒙など関係各国、国際社会の取り組みつまり、平和を求め、核兵器のない世界を求める諸国民の世論と運動があったことを確認し、大切にしたい。」

学生は日本政府には、日朝平壤宣言にもとづき、核・ミサイル、拉致、侵略の総括など両国民の問題を解決し、国交正常化をはかり、東北アジアの平和を実現することを求めている。

この日の夕方、学生10人は教室で、インターネット中継を見ながら「Public Viewing」を開催し意見交換した。このような行事は初めての開催であり、それだけに注目が高く、メディアが取材した。学生は次のような感想を述べた。「この冬まで核戦争が勃発しそうだったが、東北アジアの平和が実現しそうなことを歓迎する。」「詳しくはわからないが、大きな出来事をリアルタイムで見ることができた。」「朝鮮半島の非核化にはまだ時間がかかるだろうが、粘り強く取り組んでほしい。」「非核化の費用を韓国と日本が負担することは心配だ。」「朝鮮戦争の終結を期待したい。」「これからは日本の北朝鮮に対する戦争責任、戦後補償を考える必要がある。」「東北アジアの平和に期待したい。」「もしかしたら北朝鮮に旅行ができるかも。ちょっと不安だけど。」「地元TVで朝鮮学校生徒の喜びの声が報道されていた。彼らにとっても大きな出来事なのだと思った。」「・・・感想は尽きない。

この課題は平和学を学び、平和友好の旅を通じて内外の人々との対話から、学生自ら見出し

6. 東北アジアの平和友好へ

これまで愛媛大学共通教育科目「平和学」を紹介し、受講した学生の取り組み、成長を紹介してきた。学生は平和のための学びの主人公になり、次のような課題を見出し、取り組んでいる。

- (1) アジア・太平洋戦争とそれに至る過程での侵略的行為と戦争に対する反省
- (2) 諸国の内戦の収束と民族自決
- (3) 世界の人々の自主独立、対等平等、内政不干渉、平和共存
- (4) 世界の問題を解決するために、戦争によらない協力と対話、平和友好

この課題は平和学を学び、平和友好の旅を通じて内外の人々との対話から、学生自ら見出し



2018年8月6日
広島平和式典にて

てきた大切な「真理」である。間違っているかもしれないが、学生自らが問いかけ、世界の人に呼び掛け、共に育ち、平和な世界をつくるための礎いしずえになっている。学生はこの課題をふまえ、また問いかけることで内外の人々と広く深く交流できる。ここに平和学と平和友好の旅の到達点がある。

2018年8月6日、広島平和式典の出席した学生はメディアの取材に次のように応えた。「私たちはどんな人間にでもなれる。(核兵器など) 恐ろしいものではなく、人々を幸せにできるものをつくっていかないといけない」「平和に対する考え方が変わった。核兵器の抑止力で戦争を遠ざけても、それが本当に平和を言えるのか」。学生の平和のための学びはこれからも続く。

結びにかえて—学生が平和のための学びの主人公になる—

本稿では大学共育と平和学について、戦争体験記録や平和友好の旅に取り組む学生の様子を紹介した。愛媛大学の平和学に興味をもっていただけでしょうか？ 平和学という授業だからこそ、大学の授業にありがちな、一方通行、上位下達を何とか克服し、「学びの共同体」を大学で実現し、学生が学びの一步を踏み出せるよう工夫している。何よりも感心するのは、平和学を受講し、そこから学生が平和のための学びの主人公になっていることである。私は学生の生き生きとした姿に関心を持ち、今しばらく、平和学に取り組みたいと考えている。



2018年6月
東北大震災・福島原発事故のために愛媛に避難した家族を支援する農業ボランティア

なお、紙幅の都合で、平和学の一環として取り組んでいる東日本大震災・福島第一原発事故の実態把握やその被災者、愛媛への避難者とのかかわり、生活

への避難者とのかかわり、生活

支援等については別稿の課題としたい。学生の取り組みについては、「3.11メモリアル愛大実行委員会」ブログを参照されたい。この学生グループは、2011年3月11日以降、東日本大震災と原子力災害をふまえ、被災者・避難者に寄り添った真の復興を求め、震災を風化させず、被災者・避難者と共に歩む取り組みをしている。

2018年7月6日、愛媛県、広島県、岡山県では豪雨災害があり、天災と人災について実態を把握し、被災者と共に歩む取り組みが求められている。学生らは今夏に用意した広島や韓国での平和友好の旅に加え、愛媛県南予地域(大洲市・西予市・宇和島市)での豪雨災害の把握と災害復旧ボランティアを検討し、取りかかっている。平和のための学びの主人公になった学生に期待を寄せたい。



アジア・太平洋戦争犠牲者追悼
豪雨災害お見舞いを込めた
2018年度愛媛大学
第46回納涼盆踊り大会

*主催：同大会実行委員会
(愛媛大学職員組合、愛媛大学生協、
和太鼓研究会、放送研究会ほか)
協力：愛媛大学